

東日本と西日本を結ぶ道は美濃地方（現代の岐阜）を通らなければならず、戦国時代（1467－1600）に「美濃を支配するものは、天下を制する」と言われていた。1567年に斎藤氏を倒した織田信長（1534－1582）は天下統一を目指した。彼はスローガン「天下布武」を通して自分の野望を集約した。そしてそれはしばしば「天下を武力で平定する」として理解されているが、本来は「武」とは本来、「戦いを止める」という意味を持つ。また、信長は彼の書面を正当化し権威を与えるためにスローガンを刻んだ特徴ある印を作成した。このスローガンの下で、信長は足利幕府を倒し、多くの戦国武將を滅ぼし、そして仏教寺院（本願寺・延暦寺）の権力削いだ。彼はまた岐阜の城下町で商取引を解放（楽市楽座）し、自分の領地から料金所を取り除き、そして庶民の経済的安定をはかる政策を講じた。